二十歳の誓い

「好きなことで生きていく。」私が小学校６年生の時に流れていたYouTubeの広告です。ハッとしました。父親と同じことを言っていたからです。芸人に憧れていた私にとってはこれ以上ない魅力的な一言でした。

私は両親から勉強をしなさいとか何かを強制された記憶がなく、いつも言われていたのは「好きなことを見つけなさい。そしてそれを仕事にしなさい。」という言葉でした。でも本当に楽しいこと、好きなことを見つけるということは、とても難しかったです。

小学五年生の冬の初めての経験が、私の好きなことを見つける出発点となりました。「クリスマス会で一緒に漫才せえへんか」友達から誘われ人生初の漫才をすることになったのです。二人でふざけあいながら何度も練習し、そしていざ本番、その反応はやや受けでした。それでも初めて作ったネタで、少しでも笑いをとれたことがこの上なく嬉しかったのです。その半年後の小学六年生の春に漫才クラブができ、友達とすぐに参加しました。それからは毎週一つ新ネタを作り、給食の時間に漫才をするという生活が始まりました。卒業までの一年間、毎週１回５分のネタを作り続けたのです。当然ネタ作りはすごく大変でしたが、ウケた瞬間は最高の気分でメチャクチャ楽しかったです。漫才を通じて相方の凄さも実感するようになりました。とっさのアドリブや自分には出ない発想のボケなど頭の中を覗いてみたいとはこのことかと幼いながらに思いました。次第に相方だったらどうするだろうとも考えるようになりました。

中学校で引っ越し、誰も知らない学校で不安でいっぱいでしたが、その状況を救ったのも漫才でした。毎学期末のLHRに生徒が出し物をするという時間があり、そこで漫才をしてみようと思ったのです。それがきっかけで多くの人に認知してもらえて馴染むことができました。さらに発表や発言などをする際、漫才で得たノウハウが大いに役立ちました。まず話す内容を組み立て、よどみなく言葉が出てくるように何度も何度も練習をし、しっかり準備をした上で人前に立つ。最終的に私の好きなことは「人前で話すこと」だと気がつきました。

小学校の卒業文集には「夢は芸人になること」と書きました。でも今は違います。私の将来の夢は教師になることです。両親がしてくれたように主体性を重んじ、一人一人の個性を尊重して、そして何より生徒を巻きこんで楽しい授業をする「面白可笑しい先生」になりたいです。
このことを二十歳の誓いとさせて頂きます。

令和６年１月８日　　新成人代表　　今井宝希